

第123回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 令和6年6月21日（金） 13:30～15:27

場 所 神戸大学本部 大会議室 及び WEB（Teams 使用）

出席者 藤澤議長（学長）、
角元委員、齊藤委員、坂井委員、高梨委員、伯井委員、久元委員、
平尾委員、丸谷委員、宮田委員、山谷委員、玉置委員、河端委員、
奥村委員、松尾委員、森山委員、北川委員、柿原委員

（オブザーバー）外村監事、林監事、玉岡副学長、近藤副学長、眞庭副学長、
大川副学長、藤濤副学長、福本副学長、梅屋国際文化化学研究
科長、北野経済経営研究所長、白井農学研究科長、村上医学
研究科長

欠席者 齋藤委員、木戸委員

議事要録について

第122回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項 [委員からの主な意見等（○：意見・質問）]

1 国立大学法人神戸大学学則の一部改正について

教育研究評議会評議員の員数改定並びに学内共同教育研究推進組織に置く神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター及び統合研究拠点をデジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構の下に置くことに伴い、国立大学法人神戸大学学則を一部改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

2 令和5事業年度決算について

令和5事業年度財務諸表等について、決算概況書及び附属病院決算に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

また、併せて、財務諸表に添付する事業報告書及び決算報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

○ 「成果を中心とした実績状況に基づく配分」の評価指標である、外部資金受け入れのグループ内順位は、次年度の運営費交付金交付額にどのように影響するのか？

→ 当該順位に応じた配分率を基に、次年度の運営費交付金が配分される。順位は大学の決算状況に基づいて上下するため、今後も当該評価指標を伸ばし続けていかなければならない。

○ 外部資金の受入に係る評価は、運営費交付金交付額全体にどのくらいの影響を与えるのか？

→ 令和5年度の場合、21,105百万円の運営費交付金収益のうち、約80百万円程度である。

○ 「純資産の目的積立金について、現金の裏付けがある」とはどういう意味なのか。また、目的積立金は取り崩すことで自由に使える資金になるという理解でよいか？

→ 利益のうち、減価償却見合い分を取り除いたものを「現金」としている。目的積立金については自由に使える資金でなく、何らかの目的を持ち、長期的な計画を立てて取り崩していく。

3 大学病院改革プランの策定について

神戸大学医学部附属病院大学病院改革プランを策定することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

○ 医師の働き方改革として、時間外勤務の上限規制が導入されているが、どのように乗り切ろうとされているのか？

→ 大学病院の場合、特に若手教員の勤務時間が制限されることにより、教育及び研究に割く時間が制限されることを問題視している。厚生労働省や文部科学省からの予算を有効に活用し、タスク・シフト/シェア、医療DXを取り入れながら適切な労務管理を推進し、教育及び研究を維持して参りたい。

○ 文部科学省は、大学病院ごとに個別に改革プランを求めるのか？あるいは、成功した大学病院を一つのモデルケースとして他大学にも成功例を提示し、効率化を図るのか？

→ 大学病院ごとに病床数規模などが異なるため、同じ改革プランを実施できる訳ではないが、大学病院の使命の一つである研究は重要な事項なので、全国医学部長病院長会議など様々な意見交換の場で良いモデルケースが取り上げられ、また、中央省庁等は、良いモデルケースに対して補助金を付けていくことになるので、それらを実行していく中で他大学も取り入れていく形になると思う。

○ 仮に補正予算がない場合はどのような影響が出るのか？

→ 基盤的な部分以外の収入は、競争的資金や外部資金のみであり、安定的な経営ができるかという点非常に厳しい状況である。

○ 神戸市は、大学病院の地域医療・救急医療や ICCRC における外国人患者受入れなどで大変お世話になっており感謝申し上げます。今後、神戸大学として「hinotori」に続く新たな医療機器開発や神戸未来医療構想にある医工融合事業の更なる展開を行っていただきたい。

→ 医療機器開発や神戸未来医療構想の医工融合事業展開にあたっては、大学病院の運営が基盤となるので、外部資金の獲得について引き続き産官学で頑張っていき、研究力の強化に努めて参りたい。

○ 医師の働き方改革について、医師の業務を見直すことによって、医師以外の様々な職種の方へタスク・シフト/シェアしていくことは可能なのか？

→ 医師の働き方改革以前から医師の業務のタスク・シフト/シェアの議論はあり、責任など様々な問題によって、なかなかスムーズには行えていないが、徐々には進んでいる。

○ 県内医療機関と大学病院との具体的な連携方法の検討状況はどうか？

→ 医師派遣のヘッドクォーターを大学の中に作り、県内医療機関に対して必要な診療支援を滞りなく行えるよう、ニーズを踏まえて整えていくことを検討している。

4 令和7年度概算要求について

令和7年度概算要求に係る組織の廃止転換・再編成等、教育研究組織改革分及び共通政策課題分について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

報告事項

1 令和5年度監事監査報告について

令和5年度に実施した監事監査の結果について報告があった。

2 2023（令和5）年度第3四半期神戸大学資金運用実績報告について

2023（令和5）年度第3四半期神戸大学資金運用実績について報告があった。

3 統合研究拠点アネックス棟の現状について

統合研究拠点アネックス棟の現状について報告があった。

4 大学院医学系研究科（仮称）の改革構想について

令和8年4月1日付けで、大学院医学研究科及び大学院保健学研究科を改組し、大学院医学系研究科（仮称）を新設する改革構想について報告があった。

5 神戸大学デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構の改組について

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業の推進にあたって必要となる機能を整備するため、デジタルバイオ・ライフサイエンスリサーチパーク推進機構を改組することについて報告があった。

- 6 バイオメディカルメンブレン研究・オープンイノベーション拠点棟について
バイオメディカルメンブレン研究・オープンイノベーション拠点棟の竣工スケジュール及び入居者募集について報告があった。
 - 7 多様な財源による施設整備について
ICCRC 増築棟、地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究施設及び高度情報専門人材育成（システム情報学）拠点の整備について報告があった。
 - 8 国立大学協会声明について
国立大学協会声明について報告があった。
 - 9 その他
外村監事、林監事が令和6年8月で退任する旨報告があった。
- ◎ 次回は、令和6年9月20日に開催予定。